

1 柏市地域包括支援センターの事業評価について

(1) 承認・不承認

・承認 : 10名

・不承認 : 0名

(2) 委員からの意見等

内容	委員	御意見等	市の回答
評価指標, 評価結果について	植野委員	指標項目がより評価しやすいものになっていると思います。	
	奥野委員	評価指標の各項目について市の独自指標の見直しや整理があったことで、事業評価の趣旨、目的が分かりやすくなったと思います。	
	鎌田委員	柏市の評価結果は全ての大項目において、全国及び千葉県の平均を上回っており、この間の向上努力の成果は特筆すべき結果だと思う。組織運営体制面で、一部要改善の結果として表れているものの、現場の業務遂行上に支障が生じないように適正に処置されており、懸念はないように思う。	
	中村委員	今年度の評価では、柏市は人員配置以外100パーセントで素晴らしいです。	
	濱田委員	市内の地域包括支援センターはどれも優秀ですね。	
運営体制について	鎌田委員	現在も地域の高齢化が益々進む途上であり、各現場で発生する様々な新たな課題に、柔軟に対応できる仕組み・体制を、引続き維持向上させる姿勢が肝要と考える。	・後期高齢者の増加に伴い、複合的な課題を有する事案が増加すると認識しております。引き続き、各地域の実情に対応できるよう、センターの運営体制及び後方支援機関である市の体制強化を図ってまいります。
資料について	中村委員	レーダーチャートでは柏市より他市町村が劣っているとしか読み取れないので、作成は必要ないような気がします。	・注釈を付ける等、理解いただきやすい資料となるよう工夫してまいります。

2 令和3年度柏市地域包括支援センターの運営方針について

(1) 承認・不承認

・承認 : 10名

・不承認 : 0名

(2) 委員からの意見等

内容	委員	御意見等	市の回答
運営方針の記載について	植野委員	「取り組みの視点」が加わったことでより分かりやすくなったと思います。	
	濱田委員	変更点については、これまでの取り組み（「在宅医療・介護多職種連携推進事業」「フレイル予防推進事業」など）の具体的な記述や業務実施方針内の取り組みの視点も加筆があることにより各地域包括支援センターも取り組みやすくなったのではと思います。	
	奥野委員	業務実施方針に〈取組の視点〉が記載されたことにより、方針が理解されやすくなりました。今後は、実施方針取組視点の中に取組方法や対策をより具体的に出していただきたいと思います。	・センターが地域の実情に応じた事業運営が行えるよう、運営方針や仕様書にて示してまいります。
運営体制について	植野委員	包括支援センターの業務が多岐にわたり、責務が増え職員が疲弊しないか心配です。	・担当エリアにおける高齢者人口等を勘案し、センターの運営体制を見直してまいります。
	鎌田委員	各域内の高齢者人口増加推移を鑑み、運営体制、特に人員配置は万全であるかを今後も常時注視していく必要がある。	
	中村委員	事務補助員の配置により、専門職職員が業務に専念できることを期待します。	
関係機関との連携について	鎌田委員	地域で業務を一体的に進めていく体制の充実化を図るために、市及び関係機関との情報共有は欠かせない。各現場が抱える個別課題を、丁寧に汲み上げ、解決策が得られるような心配り方策が大切であり、是非引き続き注力して頂きたい。	・センター、市及び関係機関間で十分な情報共有を図り、地域の課題解決につながる支援を行ってまいります。
介護予防事業について	奥野委員	介護予防業務として、「取組の視点・・・新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮した取り組み方法を検討する」となっています。筋肉の減少、認知症の進行など、コロナ禍による高齢者の心身への影響が指摘されていることも含めた介護予防業務を検討してください。	・オンラインや紙面、公園等を活用した活動への転換等、工夫した取組みが広まるよう支援してまいります。
	中村委員	一般介護予防事業のフレイル予防ポイントカード事業はすでに実施されているのでしょうか。参加者は楽しみの一つとなるでしょうか、センター職員の負担にはなりませんか？	・令和2年度より事業を実施しております。センターの負担増につながらないよう十分配慮しながら、拡充に努めてまいります。

3 その他意見

内容	委員	御意見等	市からの回答
コロナ禍での運営について	植野委員	令和元年度の事業評価が柏市のすべての地域包括支援センターにおいて全国・千葉県の平均を上回っていることを改めて素晴らしいと思っております。 地区別研修や会議など地域包括支援センターごとに開催方法が異なります。コロナ禍において対面が難しくなっている現状を踏まえて行政側からの支援も必要ではないかと思いました。	<ul style="list-style-type: none"> ・市が十分に後方支援を行い、センターが地域包括ケアシステムの中核的な役割を果たせるよう取り組んでまいります。 ・社会情勢を鑑み、オンラインの活用や対面時間の短縮等の感染対策を講じつつ、事業を実施するとともに、地域における高齢者の相談窓口として、引き続き、地域の関係者と連携しながら相談支援を行い、高齢者の課題解決に努めてまいります。 ・フレイル予防の観点からも、口腔機能の維持・向上は重要と考えます。多職種や関係機関との連携により、効果的に進めてまいります。
	鎌田委員	地域住民の共通の願いは、コロナ禍を一日も早く終わらせたいの思いである。喫緊の課題として、新型コロナウイルス感染拡大防止のための、様々な施策への傾注努力は、必ず得心できる結果に繋がるものと思う。 民生委員としての活動下、地域包括支援センター従事職員との連携プレーにより、高齢者の個別課題のタイムリーな解決に繋がった例を耳にすることは多い。私自身も、センターとの協働により、高齢者の個別課題の克服に一早く漕ぎ着けられたことが多々あり、実感している。 センターが地域ケアシステムの中核的機関としての機能を更に向上させることは、確実に地域住民の幸福増幅に繋がっているものと確信している。	
	高野委員	コロナの状況下で、運営には非常に困難で大変な状態とは思いますが、中でもしっかりと対応していただいて感謝しております。 口腔ケアがおろそかになることで、免疫力の低下もみられますので、今後、啓発も止めずに対応していただければと思います。 感染拡大に認知症の問題点などもあると思いますので、お身体にお気をつけください。	
	中村委員	先日zoomでの地域ケア個別会議に参加させていただきました。 コロナ禍で日常業務が行いにくくなっていることと思いますが、地域の拠点としての活躍を今後も期待しています。	
	村上委員	サロンなど地域での集まりに参加することがなくなり、今まで元気に過ごされていた方が、介護認定を受けデイサービスに通うようになったという話を多く聞くようになりました。町会の集まりもほとんどない状況なので意見交換の場もないので、地域での見守りというのは今は難しいのかと思います。 新型コロナウイルスの感染が落ち着き、以前のようなサロンが再開できる日がくるように祈るばかりです。	